

学 校 評 価 シ ー ト （ 1 / 15 ）

部・学年	教務部	1 / 2	領 域	学校経営
重点目標	1 校内での様々な活動を積極的に公開し、地域から信頼される学校づくりを目指す。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
①生徒・保護者に対する学校評価からニーズを読み取り、ホームページに反映させて内容の充実を図るとともに、定期的に更新する。 ②中学生対象の学校説明会や学校紹介ビデオ・パンフレットの内容を充実させる。		①学校評価での満足度。 <u>ホームページの掲載内容と更新状況</u> 。 ②学校説明会の際に、来校した中学生や保護者にアンケートをとる。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
①ホームページの掲載内容の充実及び内容更新を素早く行うことができた。レイアウトの工夫及び、学校行事の画像や部活動試合結果を素早く掲載するように心がけた。学校説明会への来校者の3分の2が本校ホームページを見ており、カラフルで見やすく分かりやすいという感想が多かった。また、学校の様々な内容について理解できたという感想が多くあった。 ②中学生対象の学校説明会参加者は、夏482名（昨年415名）、秋325名（昨年358名）で、秋の悪天候を考えるとよい結果であったと考えられる。アンケート結果を見ると、学校の取組・スライドショー・生徒による部活動紹介により、本校の取組と生徒の様子が非常によく分かったという感想が多かった。 本校の一人一人を大切にする指導と明るく活動的になってきた生徒の様子を伝えることができてきたという印象である。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
①ホームページについては、引き続き充実させるよう努力を続けていく必要がある。また、各担当者が、ホームページ作成者がそのまま掲載できる内容のファイルを作成することにより、行事等の掲載をさらにスムーズに行えるようにする必要がある。 ②学校説明会では、さらに生徒の活躍の場を与え、生徒の活動意欲の推進に役立てていきたい。また、スライドショーについては、さらに動きのある充実した内容のものを作成できるよう研究する必要がある。				
v 学校関係者評価の結果				
①ホームページは立派である。よく見させてもらっているが、構成や写真などきれいである。 ②「学校説明会の開催は何回行っているのか」という質問あり。年間2回（夏休み＝7月第4土曜日）と11月＝第3同曜日）という回答に、もう1回くらい考えられないか。無理ならば、来られなかった中学生に随時対応するようという意見。				
vi 学校評価のまとめ				
①ホームページの内容や更新頻度については、目標を達成できており、見た方や学校関係者評価でも高い評価をもらっている。今後も中学生やその保護者からの期待に応えられるよう、一層の内容充実を目指していきたい。 ②学校説明会では在校生の活動場面をさらに増やし、中学生に魅力ある学校という印象を持ってもらうよう広報活動に取り組む。				

学校評価シート（2/15）

部・学年	1 学年	1 / 1	領 域	学校経営
重点目標	2 自己啓発指導重点校として、生徒の充実した学校生活を支援する。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）			ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
③基本的な生活習慣の確立，基礎学力の定着等を図り，前向きな高校生活を送らせる。			③退学者数。家庭との連携状況。朝自習の取組状況。学校行事への参加状況。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>③基本的な生活習慣確立のため，SSE（挨拶や入室の仕方）や集会指導により学年全体に指導してきた。また，遅刻の多い生徒に対しては早朝登校指導や個別に指導するなどした。基礎学力の定着に向けては，朝自習におけるマナトレを利用した学習会や夏季補習，考査前の学習会など，学年で統一した取組みを実施した。その結果，退学者数については12月現在で1人と例年にない状況である。しかし，遅刻に関しては，1学期193日（平均2.8日）が，2学期には359日（平均4.7）という状況になっている。</p> <p>家庭との連携に関しては，学習面や生活面で心配のある生徒に対して，適時に電話連絡や面談などを実施している。</p> <p>朝自習の取組みに関してはマナトレなどで力を発揮できない生徒も朝読書や奥の細道の書写や和綴じには積極的に取り組むことができた。</p> <p>学校行事では，田植え体験や文化祭，体育祭，収穫祭などがあり，大部分の生徒が参加して，自分の役割分担をきちんとできたが，全員参加は達成できなかった。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>③学年全体としては，学年職員による生徒理解が深く，個に応じた指導・支援の実施がされている。学習面で力を発揮できない生徒に関しては，課題やレポート，学習会に参加させるなど，引き続きフォローの体制を強化していきたい。</p> <p>また一方で，学習面や生活面で課題があり，指導に従えない生徒がでてきているが，丁寧にサポートすると同時に，進路変更も視野に入れて保護者と連携を図り指導していきたい。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>③退学者が4名というのは学校の取組が成果を上げているからだと思う。10年位前とは劇的に変わった。この4名の理由は何なのか。→（回答）学校以外に興味のあることができたため。朝自習で，一生懸命やっているというのは素晴らしい。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>③生徒の生活面での落ち着き，行事への参加意欲，普段の授業態度から見る学習活動の理解度など，少人数指導の成果が大変大きい。クラス増など状況の変化はあるが，少人数指導を継続して，生徒に「学校に来る意義」を理解させる指導を続けていきたい。</p>				

学校評価シート（3/15）

部・学年	総務部	1 / 2	領域	学校経営
重点目標	3 P T A活動を更に活性化し、生徒の健全育成に資する。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
<p>④本校 P T Aを構成する広報、通学安全、企画の 3 委員会が積極的に活動できる環境を整える。</p> <p>⑤ P T A活動の中心となる総会及び理事会が充実したものになるよう、日程・内容等を検討する。</p>		<p>④各委員会の出席状況及びその活動状況。参加者の感想等。</p> <p>⑤総会、理事会の出席及び会議への参加状況。</p>		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>④通学安全委員会：（下校指導）6月24日（金）9名参加 11月25日（金）7名参加 （環境美化活動）10月14日（金）8名参加 広報委員会：6月3日（金）8名参加 7月7日（金）6名参加 企画委員会：7月7日（金）7名参加 9月16日（金）7名参加 通学安全委員会、広報委員会については地道な活動ぶりといえよう。他方、企画委員会は立ち上げ3年目にして、実際的に機能してきた感がある。</p> <p>⑤総会参加者は33名で、昨年度比プラス3の増であった。ここ数年、30数名の数値で推移しているものの、今後、学級増に伴い漸増していくものと思われる。内容も充実改善してきており、談論風発の中、保護者の意識の高さがうかがえる。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>④通学安全委員会、広報委員会については、現行路線を踏襲しつつも、見直すべき点を精査し活性化に努めたい。現状では、企画委員会が企画・提案する事業は、緑城祭 P T A催事と P T A研修会の2件だけであるが、今後、さらに検討したい。</p> <p>⑤文字通り、総会は総意形成の場であることを踏まえ、理事以外の会員にも更なる出席の呼び掛けを行い、参加者増につなげたい。また、単なる数合わせに終わることなく、少数意見を大切にするといった質重視の運営に努めたい。これは理事会にもあてはまることであろう。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>④高校になると P T Aの活動も難しいと思うが、委員会活動を中心に頑張っているようだ。</p> <p>⑤今年は30周年行事があり、P T Aも例年以上に学校との関わりを持った。折角いい流れができたので、来年度以降も新役員のもとで頑張っていってほしい。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>④理事がいずれかの委員会に所属して活動していくことは、効率的な P T A運営の一助になっている。来年度も、保護者の主体的な活動を学校側が支え、有機的な活動を目指したい。</p> <p>⑤総会や理事会の時期・内容等の検討を行い、P T A活動の一層の活性化を目指していく。</p>				

学校評価シート（4/15）

部・学年	事務室 1/1	領域	学校経営
重点目標	4 適正で効率的な財産管理と公金の扱いに努める。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
⑥予算要求の内容を精査し、効率的な執行を行う。		⑥新規購入品と現有物品の調査結果。各棟単位、各教科単位での備品設置状況。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
⑥備品の状態を確認して、不用決定・廃棄等を進めている。予想以上に使用不可能なものが多い。			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
⑥円滑な学校運営のためには新規備品の購入が最善の策であるが、年度の後半に入ると、予算の確保は難しい。			
v 学校関係者評価の結果			
⑥校舎の周辺はいつ来てもきれいになっていて素晴らしい。これだけ周囲に樹木が多いのに落ち葉さえ全く落ちていないのは日頃の手入れが行き届いているからだと思う。			
vi 学校評価のまとめ			
⑥コンプライアンス意識を持ちながら、今後も適切な事務処理に努めていく。また、来校者に学校を少しでもよく見てもらえるよう、学校技能員と連携し美化に努めていく。			

学校評価シート（5/15）

部・学年	教務部	2/2	領域	学習指導
重点目標	1 基礎・基本の定着を図るために、授業の工夫・改善に努める。また、生徒の参加の場を増やし、分かる授業を展開する。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
<p>①生徒が興味を持ち、自ら考え、活動できる授業が展開できるように努める。</p> <p>②中学校での学習事項を整理して指導する「レディネス・プログラム」や、学習単元の特性に応じて適宜、レッスルームを編制する「単元別習熟度別授業」を実施する。</p>		<p>①授業公開の実施回数と実施状況。<u>校内研究授業・研修会の実施回数とその状況。</u></p> <p>②<u>生徒による授業評価アンケートの結果。</u></p>		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>①「職員間授業公開」を、5月と9月に一週間ずつ計2回実施した。6月18日には、開かれた学校づくり委員への授業公開を行った。11月19日に、「授業錬磨の公開日」として授業公開を2時間行った。 職員研修については、7月15日に「薬物乱用防止」、10月20日に「生徒指導」、11月24日に「不祥事防止」、12月9日に「薬物乱用防止②」、12月12日に「特別支援」を行った。今年度は、3月12日に「情報」、3月13日に「人権教育」の研修を行う予定である。行った研修については、非常に充実した内容であった。</p> <p>②今年度は少人数授業を数多く展開し、朝自習を含め中学校の学び直しをさらに充実して行った。アンケートの結果によると、約80%の生徒が授業にきちんと取り組み、その内容に満足している結果となっている。授業内容を理解している生徒は65%であった。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>①11月の「授業錬磨の公開日」は、悪天候にもかかわらず40名近い見学者が来校した。来年度は、このことを踏まえ、見学者の対応を準備しておく必要がある。 職員研修会については、職員が前向きに取り組む課題を見つける場面もあり、来年度も継続して実施し、職員の能力開発・指導力向上に役立てたい。</p> <p>②授業規律が浸透し、授業内容を理解する生徒が多くなってきた。しかし、家庭学習時間が0分の生徒が全体の70%であり、今まで生きてきた生活習慣を改善し、家庭学習時間を少しでも確保するよう家庭と連携した取組を如何に行うかが課題である。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>①授業錬磨の公開日という新しい取り組みに、ものすごい大雨の日だったにも拘らず大勢の中学生や保護者が来たということは、法典高校が関心を持たれている証拠である。</p> <p>②1回目の「開かれた学校づくり委員会」の日に授業を見させてもらったが、生徒の授業態度は大変素晴らしいものであった。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>①生徒にとってわかる授業を実践するとともに、基礎基本の定着を図るため、教員同士や外部への授業公開の機会を増やしていく。</p> <p>②今年から全教員のすべての講座で生徒による授業評価を行ったが、来年度以降も継続し、その結果を各教員が授業改善につなげていく。</p>				

学校評価シート（6/15）

部・学年	2 学年	1 / 2	領 域	学習指導
重点目標	2 将来、良き社会人となるために必要な「知識」を身につける。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
③朝自習（基礎学力テキスト）をはじめ、漢字検定や数学検定などを通じ、基礎学力の定着をはかる。		③朝自習まとめテストの結果、外部検定の結果等。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
③朝自習まとめテストを1学期末に行い、合格点に達していない生徒に対して夏休み中（7/21～7/27）に補習を行った。対象生徒15名。最終日に確認テストを行い定着を図った。漢字検定は1学期（6/10）全員受験，2学期（10/28）は希望者で受験した。この結果，準2級11人，3級52人，4級17人となり，級取得率は44.0%となった。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
③3学期は数学検定の全員受験を控えている。2学期末，冬休みに補習を行い合格率のアップを狙いたい。 漢字検定，英語検定も希望者受験を予定しており，補習等を行って一人でも多く合格させたい。 朝自習では引き続き，基礎学力のまとめプリントを行い学力向上を目指していく。				
v 学校関係者評価の結果				
③夏休みや冬休みに先生方が出てきて，個別指導や検定のための補習を行っているのは大変いいことだ。 朝自習を一生懸命にやっているというのは素晴らしい。				
vi 学校評価のまとめ				
③生徒の資格取得を目指しての検定受験は，生徒の基礎学力向上や自信にもつながるので，3年生になっても継続して取り組んでいく。是非，次の2学年でも本学年の取組を参考としてもらいたい。				

学校評価シート（7/15）

部・学年	生徒指導 1/3	領域	生徒指導																																
重点目標	1 遅刻指導により、遅刻者の減少を目指すとともに、時間を守る意識の涵養に努める。																																		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）																																	
①各学期5回以上遅刻した生徒に対して、3日連続の早朝登校指導を実践することで、遅刻回数の減少を図る。		①毎日の学校全体の遅刻者数。																																	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）																																			
<p>① <1日の平均遅刻人数></p> <table> <tbody> <tr> <td>(4月) 1年：1.69</td> <td>2年：4.25</td> <td>3年：6.13</td> <td>全校：12.06</td> </tr> <tr> <td>(5月) 1年：2.74</td> <td>2年：6.16</td> <td>3年：8.26</td> <td>全校：17.16</td> </tr> <tr> <td>(6月) 1年：3.52</td> <td>2年：5.19</td> <td>3年：9.38</td> <td>全校：18.10</td> </tr> <tr> <td>(7月) 1年：3.08</td> <td>2年：3.62</td> <td>3年：5.23</td> <td>全校：11.92</td> </tr> <tr> <td>(9月) 1年：7.85</td> <td>2年：6.70</td> <td>3年：13.75</td> <td>全校：28.30</td> </tr> <tr> <td>(10月) 1年：8.55</td> <td>2年：6.35</td> <td>3年：11.95</td> <td>全校：26.85</td> </tr> <tr> <td>(11月) 1年：9.35</td> <td>2年：8.05</td> <td>3年：13.00</td> <td>全校：30.40</td> </tr> <tr> <td>(12月) 1年：9.25</td> <td>2年：7.13</td> <td>3年：11.81</td> <td>全校：28.19</td> </tr> </tbody> </table>				(4月) 1年：1.69	2年：4.25	3年：6.13	全校：12.06	(5月) 1年：2.74	2年：6.16	3年：8.26	全校：17.16	(6月) 1年：3.52	2年：5.19	3年：9.38	全校：18.10	(7月) 1年：3.08	2年：3.62	3年：5.23	全校：11.92	(9月) 1年：7.85	2年：6.70	3年：13.75	全校：28.30	(10月) 1年：8.55	2年：6.35	3年：11.95	全校：26.85	(11月) 1年：9.35	2年：8.05	3年：13.00	全校：30.40	(12月) 1年：9.25	2年：7.13	3年：11.81	全校：28.19
(4月) 1年：1.69	2年：4.25	3年：6.13	全校：12.06																																
(5月) 1年：2.74	2年：6.16	3年：8.26	全校：17.16																																
(6月) 1年：3.52	2年：5.19	3年：9.38	全校：18.10																																
(7月) 1年：3.08	2年：3.62	3年：5.23	全校：11.92																																
(9月) 1年：7.85	2年：6.70	3年：13.75	全校：28.30																																
(10月) 1年：8.55	2年：6.35	3年：11.95	全校：26.85																																
(11月) 1年：9.35	2年：8.05	3年：13.00	全校：30.40																																
(12月) 1年：9.25	2年：7.13	3年：11.81	全校：28.19																																
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）																																			
①1学期については、学年が上がるにつれて遅刻する生徒数が多くなっているのが特徴的であったが、2学期になって全校として遅刻する生徒の数が激増している。学校生活や新クラスに対する慣れなどから気が緩み、遅刻をしないように心掛ける緊張感を失ったと考えられる。学期中に遅刻の回数が20回で生徒指導部長注意を受けた生徒が、1学期には1名のみであったのに対して、2学期は9名であることから増加の傾向が顕著と言える。2学期の皆勤生徒の数が全校で135名で在籍生徒数の25.6%、約4名に1名が皆勤であることを考えると、特定の生徒が遅刻を何度も繰り返しているのが現状であり、その改善がこれからの課題といえる。																																			
v 学校関係者評価の結果																																			
①2学期になって1年生の遅刻が増えているのは残念。しかし、数年前に比べたら格段に改善されている。今後も粘り強く指導を続けてください。																																			
vi 学校評価のまとめ																																			
①携帯電話やコンビニなど生徒を取り巻く環境が変わり、昼夜の生活に差がなくなっているため、寝る時間が遅くなっている生徒が多く、それが遅刻の原因になっていると考えられる。しかし、皆勤の生徒も結構いるので、一部の遅刻常習生徒には個別指導で対応する。また、本校ではきちんとした生活習慣の確立を指導方針の柱としているので、遅刻カードや早朝登校指導などによる全校統一した指導を継続していく。																																			

学校評価シート（8/15）

部・学年	生徒指導 2/3	領域	生徒指導
重点目標	2 定期的な頭髪・服装などの指導を実施し，規範意識を育てる。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
②改善指導対象者が減少するように，各学年で定期的に頭髪・服装指導を実施する。		②改善指導対象者の数。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>②今年度、改善指導カード発行の延べ回数が5回以上になり，特別指導を受ける生徒は2学期までに出ていない。</p> <p>4月から12月までの改善指導カードの発行枚数を学年別にみると、 1年：74 2年：47 3年：44 全校：165</p> <p>1年生は本校の生徒指導にまだ慣れないこともあつてか，服装関係で指導を受ける機会が多かつたようである。頭髪に関しては，年間を通しての全校一斉指導や各学年での日常的な指導が効果をあげている。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>②通常の学校生活の中で，朝自宅を出るときについっかりネクタイ・リボンを忘れてしまう生徒がなくなる現状がある。特に衣替えの時期には，生徒指導部だよりを発行したり，各クラスで注意を促しても，徹底されない生徒がいる。そういう生徒達のために，生徒自らが学校生活のルールをしっかりと守っていこうという意識を持てるように指導していく必要がある。教職員側が同じことの繰り返しをあきらめることなく継続していく中で，改善の方向にもっていきたい。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>②町会でも法典高校は評判がいい。服装はしっかりしている。自転車の2人乗り，無灯火は見かけるので，登下校中のことなので指導も大変だろうが，諦めずにやってもらいたい。タバコは見かけなくなった。</p> <p>生徒の服装指導を行っているなら，先生方のジャージはまずいのではないか。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>②改善指導カードによる指導は大きな成果を上げており，これが学校改善に役立っているので，引き続き実施していく。数値目標として，各学期に1回ずつ行っている一斉指導期間内における改善指導対象者ゼロを目標としていきたい。</p>			

学校評価シート（9/15）

部・学年	生徒指導 3/3	領域	生徒指導
重点目標	3 生徒理解や家庭との連携などを重視し、学校不適応対策を充実させる。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
<p>③個人面談や保護者面談，学校行事などを通して，生徒理解を深め，人間関係を築く。</p> <p>④生徒の状況を把握して，欠席や遅刻の多い生徒に対して話をする機会を増やす。</p>		<p>③問題行動カードや改善指導カードの発行数及び特別指導の件数。</p> <p>④生徒の出席状況。</p>	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>③問題行動カードの発行数（4月から12月まで） 1年：150 2年：101 3年：62 全校：313 このうち入室カード5枚による問題行動カードの発行数は 1年：74（49.3%） 2年：57（56.4%） 3年：37（59.7%） 全校：168（53.7%） 特別指導 1学期：8件14名 2学期：8件12名</p> <p>④1学期の1日の平均欠席人数 1年：2.96 2年：5.16 3年：6.98 全校：5.03 学年が上がるにつれて，欠席する生徒数も増加していく傾向がみられる。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>③問題行動カードの発行数は学年が上がるにつれて減少していく傾向がみられる。やはり時間をかけて指導を繰り返すことの効果的の重要性がある。また各学年とも約半数が入室カード5枚によるものであり，授業の準備にしっかりと取り組む姿勢を定着させたい。</p> <p>④生徒の出席状況は概ね大きな問題はないと思われるが，学年が上がるにつれて欠席数が増える傾向は改善しなければいけない課題である。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>③問題行動カードの発行が学年が上がるにつれ少なくなっていくのは，それだけ指導が行き渡っているからだろう。でも，生徒は本当によくなっている。</p> <p>④欠席や遅刻など，親はどう思っているのか。家庭の教育力の問題であるかもしれないが，家庭との連携を大切にしてもらいたい。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>③今後も，学年室で問題行動カード・改善指導カード・入室カード等を書かせる際に，カウンセリングマインドによる教員とのやり取りを必ず行い，生徒理解に立脚した生徒との信頼関係を築き，指導の成果を上げていく。</p> <p>④生徒の出席状況は家庭と情報を共有し，家庭と学校が連携して指導を行っていく。</p>			

学校評価シート（10/15）

部・学年	進路指導 1/1	領域	キャリア教育
重点目標	1 キャリア教育の推進と就職氷河期対策の充実を図る。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
<p>①学年進行による計画的なキャリア教育を実施する。</p> <p>②生徒及び保護者に対して積極的に進路情報を提供するとともに、保護者対象の進路ガイダンスを企画する。</p> <p>③企業訪問及び求人開拓を組織的に行う。</p>		<p>①学年毎の進路説明会・ガイダンスなどの実施状況。</p> <p>②進路ニュースの活用状況。ホームページへの進路情報の掲載や保護者対象の進路ガイダンスの実施状況。</p> <p>③高校生就職支援事業を活用した企業訪問等の状況。</p>	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>①進路実現を目指したキャリア教育を計画的に行った。特に、2年生に対しても夏季休業中にオープンキャンパスに参加させるなどの指導を実施した。主なガイダンスは次の通り。 【進路指導部によるもの】 進路全般説明会（3年×1回）、大学短大説明会（3年×3回）、専門学校説明会（3年×3回）、就職説明会（3年×5回）、進学推薦面接指導（3年34人×複数回）、就職面接指導（3年48人×複数回） 【外部講師によるもの】 分野別進路ガイダンス（各学年×1回）、上級学校見学会（1・2年×1回）、集団面接指導（3年×1回）</p> <p>②進路ニュースを発行し様々な情報をタイムリーに伝えた。また、保護者向け進路講演会（6/3）を昨年に引き続き実施し、保護者とともに進路指導を考える機会を得た。参加者16人。</p> <p>③県の高中生就職支援事業の指定を受け、企業訪問を5/11～6/3の期間に39社（県内23・県外16）実施した。この内、28社から求人を得て9人が内定した（12/1現在：学校紹介による内定者は22人）。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>①進路未定者や進路変更者が多くみられるため、いかに減少させるかが今後の課題となる。</p> <p>②保護者向け進路講演会は次年度以降も開催し、周知方法などを工夫して参加者を増やしたい。</p> <p>③就職氷河期の再来ともいわれる状況の中で一社でも多くの企業訪問を実施した。しかし、訪問期間が長期にわたるなど業務に支障が出ている。進路指導部員の増員を検討してもらいたい。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>①進路説明会やガイダンス、上級学校見学会などが計画的に実施され充実している。</p> <p>②保護者向け進路講演会の参加者が少ないのは残念だが、親も仕事などで忙しいと思う。進路ニュースを通して子どもと話す機会も得られるので、今後も続けてほしい。</p> <p>③高卒の求人が厳しいとは聞いている。学校の努力はわかったが、未定者ができれば出ないよう生徒と面談し、生徒の希望を叶えるよう努力をお願いしたい。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>①進路指導部と学年の連携を緊密にし、就職支援体制の強化を図る。</p> <p>②ガイダンスや進路についての個別学習の効果的な実施方法を研究するとともに、生徒の主体的な活動を促す。</p> <p>③来年度も高校生就職支援事業に応募し、一層の求人開拓を行う。</p>			

学校評価シート（11/15）

部・学年	3 学年	1 / 1	領 域	キャリア教育
重点目標	2 教育活動の成果を、生徒個々の進路実現へとつなげていく。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
<p>④進路意識を高めるために、上級学校の説明会や会社見学等へ積極的に参加させる。</p> <p>⑤LHRや総合的な学習の時間を利用し、進路学習を充実させ進路決定率を向上させる。</p> <p>⑥資格として、漢字検定 3 級以上の取得を目指す。</p>		<p>④大学・専門学校の説明会や会社見学等への参加状況。</p> <p>⑤進路学習の実施状況。進路決定者数。</p> <p>⑥検定合格者数の状況。個別指導の状況。</p>		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>④大学・短大・専門学校については出願前に最低 2 校の学校見学を行うように指導した。また、就職希望者については、全員が夏季休業中に志望する会社へ見学に行った。</p> <p>⑤1 学期の LHR や総合的な学習の時間を利用し、適性検査・進路説明会・求人票の見方・履歴書の書き方・敬語の使い方・面接の受け方、までを行った。1 月 27 日現在の進路状況は、就職 28 名、大学・短大 23 名、専門学校 47 名、未定 49 名となっている。</p> <p>⑥漢字検定は 23 名の希望者による受験であったが、準 2 級 1 名、3 級 3 名の合格であった。加えて本学年では全員受験によるビジネス系検定を実施している。昨年度の「サービス接客検定 3 級」（合格 39 名）、「ビジネス電話検定 B 級」（合格 61 名）に続き、今年度は「秘書検定 3 級」（合格 15 名）を実施した。就職試験においてはこれらの資格が功を奏したようであり、実施の意義が認められた。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>④会社見学や大学・短大・専門学校などのオープンキャンパス等への積極的な参加はみられたが、公共交通機関を普段から利用していない生徒が多く、事前の準備が必要であった。</p> <p>⑤進路未定者の中には潜在的に進学を希望している生徒が多くいるはずであるが、社会情勢の変化や経済不況の影響が家庭にも及び、そうした生徒の進路実現を困難にさせている。</p> <p>⑥将来のキャリアに向けて、漢字検定や英語検定などの個人的な受験を勧めていきたい。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>④会社や大学・専門学校までの電車やバスの乗り継ぎまで指導するのは大変だろうが、生徒のためしっかりやってあげてください</p> <p>⑤高卒の求人が厳しいとは聞いている。学校の努力はわかったが、未定者ができれば出ないよう生徒と面談し、生徒の希望を叶えるよう努力をお願いしたい。また、情報をよく知らない親御さんへの指導も大変でしょうがお願いしたい。</p> <p>⑥他学年が全員受検で行う際、もっと希望者が出てチャレンジしてくれるとよかった。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>④進路指導部と連携し、1 年次からの系統的な指導を行い、卒業時の全員進路決定を目指したい。</p> <p>⑤進路指導年間計画に基づき志望別に指導を展開しているが、キャリア教育の在り方に工夫を加え、進路決定率向上を目指したい。</p> <p>⑥朝学習の工夫により、資格取得をはじめ文章や言葉の表現力を豊かにすることで、将来への選択肢を広げることができると思われる。</p>				

学校評価シート（12/15）

部・学年	2 学年	2 / 2	領 域	特別活動
重点目標	1 多様な体験活動を通して人間関係作りを行い，コミュニケーション能力を高める。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）			ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
①富士山研修，修学旅行，ボランティア活動等を通してコミュニケーション能力や思いやりの心を身につけさせる。			①生徒の行事への参加状況，活動後のアンケート結果等。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>①富士山研修では山中湖畔のゴミ拾いを行い社会奉仕活動を行った。ゴミ拾いを行うことで自分たちの行動を振り返ることができた。</p> <p>ボランティア活動では社会福祉施設での交流活動，保育園での体験活動をおこなった。福祉施設では障害者の方々との触れ合い，お年寄りの介護体験，保育園児との触れ合いを通して客観的視点を持って他者と接する体験，及び自己の言動に対して直接感謝される体験ができたことは生徒の人間関係を広げコミュニケーション能力を高めることに非常に有効だったと考える。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
①修学旅行でも多様な体験活動を通して人間関係を広げ，深めさせていきたい。				
v 学校関係者評価の結果				
①地域の福祉施設での交流は大変いい取り組みだと思う。もし町会などで協力できることがあれば考慮するので，遠慮なく言ってもらいたい。地域の高校なので，地域でも交流をしたいと考えているが，今後も連絡を取り合っていきたい。				
vi 学校評価のまとめ				
①生徒の中には，知らない人だけでなく，対教員・対生徒とのコミュニケーションをとることも苦手な者がいるので，今後も多様な体験活動を学校側が設定し，いろいろな場面で社会性を高める指導を展開していく。				

学校評価シート（13/15）

部・学年	総務部	2 / 2	領域	特別活動
重点目標	2 校外における美化活動を推進し，道徳心やボランティア意識を育む。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）			ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
②学期毎に校外清掃活動を計画し，生徒全員が意欲的に取り組めるように工夫する。			②校外清掃の実施回数。学校周辺の清掃状況。生徒の参加状況や感想。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
② 21年度まで校外清掃は，年1回1学期末に全校一斉で実施していたが，地域の方々に好評を博したので，昨年度からはそれに加えて，各学期に1度，学年別校外清掃を実施している。今年度は3学年は1学期，1学年は2学期，2学年は3学期にそれぞれ割り振られ，学期内の任意の1日を充てることにした。生徒の参加状況は良好であり，健全な美化観念の醸成に資するようである。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
②地域住民から寄せられる声は非常にポジティブなものが多く，今後も恒常的に継続することが肝要であろう。清掃という機会にとらわれず，生徒が普遍的に美化意識を持つよう指導を強化したい。				
v 学校関係者評価の結果				
②地域の美化活動は大変ありがたい。今後は，地域と連携した活動になると，文字通り開かれた学校となるのではないかと。町会などでも検討してみるので，よろしく願いしたい。				
vi 学校評価のまとめ				
②地域の美化活動は大変高い評価を得ている。生徒による活動は継続していくが，地域との連携について模索していく。				

学校評価シート（14/15）

部・学年	生徒会保健部 1 / 1	領域	特別活動
重点目標	3 部活動の加入率や定着率の向上を図り、学校生活の充実度を高める。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
③過半数の生徒が部活動に所属し、積極的に活動できるよう、各学年と連携して指導する。		③部活動の加入率及び活動状況調査の実施。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>③ 4 月末日に実施された部活動加入調査の結果、本校生の加入率は 55.9% で、昨年度同時期の同調査と比較すると、9.6 ポイント（昨年は 46.3%）増加した。</p> <p>1 年生のみの比較では、今年度 61% で 6.5 ポイント増（昨年は 54.5%）で、これが全体の平均を押し上げることになった。また昨年の 1 年生部活動加入者 109 名が数字上継続し、うち 10 名が 2 年になって加入していることも影響している。定着率については 100% を越え 109.1% に達している。昨年の 1 年後の定着率が 89.6% だったので、20 ポイント以上大幅に向上したことになる。定着率向上は必然的に加入率増加へとつながっている。この状況が継続すれば部活の活性化が予測される。その活性化の一面として陸上競技部・卓球部等の好成績へと反映されている。今後も他の部の好成績へと連動する兆しがうかがえる。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
③この成果は、各部活動顧問の並々ならぬ尽力の結果、意欲ある生徒が多数本校を志願するようになった結果でもある。今後の改善方策としては、加入者の定着率の維持、前期入学者選抜における「自己表現の検査」での実技試験の評価をどのように選抜方法に組み入れていくのが課題としてある。			
v 学校関係者評価の結果			
③陸上部の活躍など、横断幕を見るたびにすごいなと感心している。日頃からの先生方の指導に敬意を表する。			
vi 学校評価のまとめ			
③地域住民や近隣中学校から、活発な部活動について高評価を得ている。今後は、加入率を一層高めることと、活動状況をホームページなどで広報していきたい。			

学校評価シート（15/15）

部・学年	特別支援教育校内支援委員会 1/1	領域	特色ある教育活動
重点目標	1 特別支援教育の一層の推進を図る。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
①船橋特別支援学校との交流等により、意識の深化を図る。		①生徒へのアンケート結果。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>①船橋特別支援学校との交流は現在までのところ実現することはできていないが、実施を検討中である。</p> <p>第2学年では、クラス単位で近隣の社会福祉施設（ローゼンヴィラ）に出かけ、福祉交流を通して障害を持つ方のものの見え方・聴こえ方・考え方、お年寄りとの接し方などを学ぶことができた。事後アンケートを見ると、おおむねストレスを感じることなく交流ができたようであり、中には卒業後の進路につながる体験となったりボランティアを考えるようになった生徒もいるなど、本校のキャリア教育の一助となる取組であった。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
①特別支援学校との交流の充実を図るためには、前年度から教職員への説明を行って校内の態勢を十分に整える等の準備が必要である。また、生徒会役員を中心とした小規模な交流を地道に継続していくことが大切ではないかと考える。			
v 学校関係者評価の結果			
①特別支援教育という言葉をお聞きすることがなかったが、法典高校がこういった取り組みを先進的に行っているのは驚いた。今後も是非続けていってもらいたい。			
vi 学校評価のまとめ			
①現在のところ、特別支援学校との交流は実現できていない。しかし、学年主体の取組ではあるが、新たな交流が始まり、生徒への事後アンケートでも好評であった。今後の継続を検討していきたい。			